



Answer result
60歳以上の50%が
「あまり不安はない」

「自分は大丈夫」という大きな勘違い

「新型インフルエンザって都会だけの話じゃないの？」そんな声にお答えすべく、田川保健所の白石先生にお話を伺ってみました。

本格的な流行期に入った今、
感染の機会が0という人はまずいませぬ。

白石博昭先生

福岡県田川保健福祉事務所保健監(田川保健所長)



●しらしら・ひろあき
香川医科大学卒業、医師。平成5年に福岡県庁入庁。平成9年、厚生省課長補佐を経て、平成19年から田川保健所長。

section1 田川保健所長に聞く現状と問題点

「新型インフルエンザは田川管内でも流行しているのか。」
国内での発生は5月中旬でしたが、5月下旬には福岡県内で、7月下旬には田川管内でも感染が確認されています。時期に若干のズレはあるものの、日本の各地域で確実に感染は広がっていると言えます。

「いつ自分が感染するか分らない状況というのですか。」
感染症というのは感染したら発病するに限りません。その人の免疫力、ウイルスの株、環境によつて、感染しても発病しない場合や、発病しても症状が軽微な場合があります。一方で発病した人は「水山の角」、ウイルスは潜伏したかたちで蔓延しています。まして田川は城塞や海に囲まれているわけでもなく、たくさんの人が行き来しているわけですから、当然誰にでも感染の機会はあると思います。

「アンケートでは、60歳以上のかたの約半分があまり不安を感じていないようですが。」
比較的年い世代より流行しているのは事実ですが、割合として多いというだけで、そのほかの世代に感染の危険性が無いわけではありませぬ。また季節性インフルエンザでもそうですが、高齢者も重症化しやすいということは、認識しておかなければならないのではないですか。

「今後どのような問題が起ると考えられますか。」
冬を迎え気温が下がれば空気乾燥が進み、インフルエンザウイルスがさらに増殖しやすい環境になります。わたしが今一番懸念しているのは、

「今後はどのような問題が起ると考えられますか。」
冬を迎え気温が下がれば空気乾燥が進み、インフルエンザウイルスがさらに増殖しやすい環境になります。わたしが今一番懸念しているのは、

「今後はどのような問題が起ると考えられますか。」
冬を迎え気温が下がれば空気乾燥が進み、インフルエンザウイルスがさらに増殖しやすい環境になります。わたしが今一番懸念しているのは、



特集

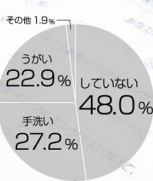
新型インフルエンザ

いま、全国的に大流行している「新型インフルエンザ」。何ソレ? という人は、多分いないでしょう。しかし深刻な問題としてとらえている人は、意外と少ないようです。今月の特集では、広報担当が町内で行ったアンケートをもとに、現状と問題点や、知ってのようで知らなかった新型インフルエンザに関する「?」について探ってみます。

Q.「新型インフルエンザ」について不安はありますか?



Q.「新型インフルエンザ」に対して予防はしていますか?



9月10日、広報担当が町内で100人に「新型インフルエンザに関するアンケート」を行い、不安の有無や予防習慣について調査しました。
【回答者】10代▶18人、20代▶20人、30代▶20人、40代▶11人、50代▶17人、60代以上▶14人

新型インフルエンザQ&A
Q1 そもそも「新型インフルエンザ」とは一体何?
もともと動物の間でしか感染しなかったインフルエンザウイルスが人に感染し、人から人へと容易に感染できるように変異したもので、誰も免疫を持っていない、全国的に流行するおそれがあるものと認められるものことです。
今回は今年4月にメキシコなどで確認された豚インフルエンザが、厚労省により感染症法に基づき「新型インフルエンザ等感染症」と位置づけられました。過去の新型インフルエンザには1918年に出現したスペインかぜなどがあり、世界人口の約3割が発症したといわれています。

Q2 今回の新型インフルエンザとはどう違うの?
症状には個人差がありますが、新型インフルエンザの主な症状は突如の高熱、咳、のどの痛み、けん怠感、鼻水や鼻づり、頭痛など、例年流行している季節性インフルエンザと似ています。困難な感染源の把握や、正確な感染力や致死率などの数値は比較できませんが、現在には毒性と言われている、ほとんどみんなが軽症で回復しています。その一方で、一部については重症化する危険性が高いことが分っています。

Q3 「重症化する危険性が高い」といってどんな人?
「A」の持病がある人
「B」呼吸器疾患(喘息、喘息気管炎)
「C」慢性心疾患
「D」慢性疾患(糖尿病、がん、腎機能障害)
「E」免疫不全
「F」ステロイド内服などによる免疫不全
「G」妊婦中の人
「H」乳幼児(5歳以下)
「I」高齢者(65歳以上)
重症化する危険性が高い人は、万が一発症した場合に受診する医療機関の確認などを、あらかじめかかりつけ医などと相談しておきましょう。なお症状が出た場合には必ず早期受診。早期治療心がけ、医師の指示に従ってください。